

海老名市高齢者虐待対策地域連絡会委嘱状交付式及び第1回連絡会議事録

平成27年5月22日(金)

午前9時30分～10時30分

消防庁舎1階会議室

○出席委員(根岸委員欠席)

佐々木委員、石井委員、鈴木委員、横山委員、川村委員、大乘委員、小田桐委員、藤田委員、樋田委員、前田委員、市川委員、大谷委員

○市職員事務局

横山保健福祉部長、清田保健福祉部次長、小澤高齢介護課長、萩原高齢者支援係長、山崎主事

●第1回連絡会

1 開会

2 委嘱状交付式

横山保健福祉部長より委嘱状交付

3 保健福祉部長あいさつ

横山保健福祉部長よりあいさつ

4 第1回連絡会

(1) 委員紹介

各委員より自己紹介

(2) 事務局紹介

(3) 会長・副会長選出

会長に前田委員、副会長に藤田委員選出

(4) 会長あいさつ

会長よりあいさつ

(5) 議事

①海老名市における高齢者虐待の状況について・・・前田会長により進行

事務局より説明

虐待連絡会の設置の経緯と市が取り組むべき業務及び虐待が疑われる事案発生時の対応や通報ルートについて、資料2及び3により萩原主幹より説明。

その後、資料1により海老名市の高齢者虐待の状況・個別事例について山崎主事より説明。

・質疑応答

委員：この事例において、長男が介護放棄を行ったのは経済的な面が大きかったのではないか。

事務局：長男家族も問題を抱えており、経済的に苦しかった部分はあった。

委員：このケースでは、長男家族が家族内で大きな問題を抱えていたということが、最後に判明した。それがもっと早くわかっていたら、対応も変わっていたと思う。

会長：一般的に、問題が表面化しないと対応は難しい。ホームレスなどでも、問題が起これば対応できるが、何も問題がなく、本人が困っていない中で支援を行っていくことは難しい。

委員：認知症自立度Ⅱ・Ⅲの変化に本人もついていけず、自身では困り感がないが不安定になってしまうケースもあると思う。そういったときに、一時的に引き離しを行うことは非常に大切。

会長：本人が困っていないという人に対して、包括は入っていただけるのか。

委員：地区の担当として、見回りに来たという形で訪問する。

委員：そういった場合は民生委員と一緒に訪問することも多い。

委員：一人暮らしは訪問しやすいが、家族と同居の方が一番難しい。

委員：養護者への支援がとても重要になる。

委員：先日、孤独死があったが、新聞がたまっていたのに報告がなかった。小さな異常があったら、警察に連絡してもらえるよう、報告の基準を作ることも検討している。

事務局：先日の孤独死があった家に関しては、外からでは郵便受けの中に物がたまっているかがわからない構造となっていた。そのため、新聞がたまっていることも郵便受けの中をのぞき込んで初めてわかる状況だったことで、通報がなかったと考えられる。

会長：早期発見には連携が不可欠である。そこで地域ケア会議も重要な意味を持つてくるのではないか。

委員：地域ケア会議では話をしていく中で自治会とも連携がとれる。しかし、個人情報などをどう扱うかは一つの課題。

会長：虐待の対応は、地域全体で連携して見守りを行うことができる体制を構築することが大切である。これからも、地域で連携できるよう考えていきたい。

②今後の予定について

事務局より今後の予定について

今後は、認知症への関心の高まりもあることから、一般の方々を対象として認知症と虐待を絡めた講座を検討している。また、啓発活動として、例年どおり広報にて記事を載せる予定。

5 閉会

藤田副会長より